【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成26年6月19日(2014.6.19)

【公開番号】特開2013-138694(P2013-138694A)
【公開日】平成25年7月18日(2013.7.18)
【年通号数】公開・登録公報2013-038
【出願番号】特願2011-289468(P2011-289468)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｎ　5/10　(2006.01)
Ｇ２１Ｋ　1/04　(2006.01)
Ｇ２１Ｋ　5/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｎ　5/10　Ｍ
Ｇ２１Ｋ　1/04　Ｒ
Ｇ２１Ｋ　1/04　Ｚ
Ｇ２１Ｋ　5/04　Ａ
Ｇ２１Ｋ　5/04　Ｓ

【手続補正書】
【提出日】平成26年4月28日(2014.4.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７５】
図１１は、第２実施形態に係るＸ線照射処理プログラムの処理の流れを示すフローチャートであり、当該プログラムは制御装置３に備えられた記録媒体であるＲＯＭの所定領域に予め記憶されている。また、図１２は、第２実施形態に係るＸ線照射処理の説明に供する概略上面図である。なお、図１２において、第２領域の位置の移動をわかりやすくするため、患者Ｋ及び腫瘍Ｃの描画を省略している。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７６】
制御装置３のＣＰＵは、予め定められたタイミング（本実施形態では、実行する旨の指示入力が行なわれたタイミング）で、当該Ｘ線照射処理プログラムを実行する。なお、第１実施形態と同様に、患者Ｋを寝台７の上部に横たわらせた状態で治療を行う場合について説明する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７９】
ステップＳ２１３において照射が終了していないと判定された場合、ステップＳ２１５において、ＣＰＵは、遮蔽体６をＸ線ビームＸの出射方向における中心線を回転軸として

回転させるように回転駆動装置６ｂを制御する。この際、ＣＰＵは、前回の第２領域における面状のＸ線ビームＸと今回の第２領域における面状のＸ線ビームＸとの角度とが略９０°になるように遮蔽体６を回転させるように回転駆動装置６ｂを制御する。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８０】

ステップＳ２１７において、ＣＰＵは、寝台７の位置が移動するように移動駆動装置７ａを制御した上で、ステップＳ１０７に移行する。この際、ＣＰＵは、第２領域の位置を、第１領域を複数の領域に分割した各分割領域に対して連続的になるように移動させる。すなわち、前回のステップＳ２０７における第２領域と今回の第２領域とにおいて端部の一部分が重なり、かつ腫瘍Ｃの一部が今回の第２領域に含まれるように、寝台７の位置を移動させる。ステップＳ２０７において、ＣＰＵは、再びＸ線ビームＸの照射を行うことで、図１２（Ｂ）に示すように、今回の第２領域Ｒ２が前回の第２領域Ｒ１と一部重なり、かつ第２領域Ｒ１における面状のＸ線ビームＸと第２領域Ｒ２における面状のＸ線ビームＸとが相互に９０°の角度をなすようにＸ線ビームＸが照射される。